

ふるさと歴史アラカルト

岩国と『花燃ゆ』ゆかりの人物8

あかねたけと
赤瀬武人4
(1838~1866年)

慶応元(1865)年、高杉晋作の挙兵が成功し、長州藩が方針転換したことによって、晋作の挙兵に反対していた赤瀬武人は奇兵隊での立場を失い、表立った活動ができなくなっていました。しかし、1月23日、懇意にしていた長府(下関)藩士の時田光介に書状を送って長府藩主への面会を求めており、また2月8日には、時田たちと下関の商人白石正一郎の屋敷へ行き、薩摩藩と和解の交渉を行っています。

同年3月10日、薩摩藩士の西郷隆盛と会うため上京しました。この時、親族に宛てた手紙の中で「内乱を生まずに革新派が挽回できるよう苦心していましたが、去年の12月について内乱となつてしまいました。私の意と反したため、やむを得ず潜伏することになりました」「諸隊が勝ち、革新派が盛んになったことは、防長二国(長州藩)にとつての幸いです」と記しており、自分の望む手法での改革ではなかったに

せよ、革新派が長州藩の実権を握ったことを喜んでいません。しかしながら、同じ手紙の中で、諸隊へ自分の考えを伝えるために下関へ行った際「不義者」「臆病者」とののしられ「切れ」「(槍で)突け」と武人を探す者もいたと書いており、武人が危険な立場となっていたことも分かります。上京を決意した背景には、長州藩内でのこうした状況もあったようです。そして3月27日、大坂で西郷に会った後、武人は幕府に捕らえられてしまいました。

同年11月3日、第二次長州出兵(四境戦争)が迫る中、幕府と長州藩の戦争回避を工作する目的で釈放されました。帰国した武人は、長州藩内で戦争を回避する方策を探りますが、藩内は幕府を迎え撃つ方針で固まっており、逆に裏切り者とみなされた武人は故郷の柱島へ帰ることとなりました。12月27日、武人捕縛の命を受けた長州藩士によって捕らえられてしまいます。



◀『赤瀬武人書』(個人蔵)…赤瀬武人が柱島で捕らえられる直前に書いたもので、絶筆(生前最後の作品)と伝えられている。意味は「猛々しいトラもためらっていたらハチやサソリが刺すのに劣るし、すぐれた馬もぐずぐずしていたら走るにぶい馬に及ばない。(才能があっても努力しなければ、着実に努力する平凡な人に劣る)」。自分の境遇をかえりみて詠んだものと思われ、これを書いた約1カ月後の慶応2(1866)年1月25日、山口で処刑された。

※慶応2年の薩長同盟の背景には、このような地道な活動があった。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

岩国市 人口・世帯

人口 140,758 人【前月比 +149人】 男性 66,630 人 女性 74,128 人

世帯 66,571 世帯【前月比 +191世帯】 ※外国人人口を含む(平成27年5月1日現在)

交通事故発生件数 4月分事故件数 36件(157件) 死者数 1人(1人) 傷者数 37人(173人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成27年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337